



すし食いねえ

よしはしみち お
吉橋通夫作

こうだんしゃ
講談社

豆吉は十二歳。江戸は両国尾上町で、おとつあんの
与兵衛と屋台で「早づけすし」を売っている。ふたりの夢は、
屋台店で終わらずに、ちゃんとした内店を持つことだ。
ある日、ひとりで店番をしていた豆吉は、侍たちに追わ
れる若侍文四郎と、短棒術の娘おきようと知り合う。文
四郎は、代官の横暴を勘定奉行に
訴えようとしていた。豆吉は、おき
ようとともに彼を助けようとする。
人情あり、立ち回りあり、すしの味
くらべありの物語のはじまり、はじ
まり。さあ、すし食いねえ！

